



阿部章三

住宅夢工房 阿部

室蘭工業大学大学院講師

山田 深

コラボレーションから生まれる 家づくりへの挑戦

撮影協力／wine Bar Mouton 写真／宮下 正寛 文／本誌編集部

家Ⅱ人の法則。

そのために、目指していくもの

山田 ワインバーでの対談なんて、珍しいですよ。このお店は阿部さんが選んだんですか？

阿部 ワイン好きなんです。家とワインについている気がしませんか？

山田 そういえばそうですね。時の長さだけでなく、歴史にも耐えられるということがポイントかもしれません。それで今日は、阿部さんと私がコラボレーションをすることになったきっかけだけでなく、その先につながっていく可能性をお話していきたいでしょうか？

阿部 よろしくお願します。きっかけは、北海道の気候特性を生かしたパッシブ換気住宅を、誰もが簡単につくることができないだろうか？ という想いで（財）室蘭テクノセンターに相談したのが最初でした。それも、単なる企画住宅ではなく、基本性能を確保しながら、地域社会のなかでの住宅のあり方、価値、デザインなどさまざまな角度から検討を加え、基本となるモデルを作ることは出来ないだろうか？ と考えて、山田先生のところにたどり着いたわけです。

山田 地域や大学を巻き込んで、一緒に研究しようという発想ですね。

阿部 ええ。ひとつの会社だけでは取り組みな問題だと思いました。さまざまな問題を抱える地域の中での要望や想いに對して、「地域工務店」という立場でどう向き合っていくべきなのか悩みました。ハードとしての住宅を作るのではなく、楽しい人生をサポートすることが、住宅夢工房 阿部の基本コンセプトです。

山田 仕事を通して、いかに地域にも貢献できるか、ということですね。

阿部 今、国の政策が大きく変わり、住宅づくりは、ワインづくりに似てきていると思うんです。100年後、誰が住むかはわからないけれど、その歴史に耐えるものを作っていけば、それは文化になるのではないかと。

山田 なるほど。工務店として住宅を手がける阿部さんならではの、興味深い問題提起ですね。建築家として私も関連してくる部分が十分にありそうです。

阿部 例えば、技術つて、変化していくべきものだと思うのです。弊社はリフォームからスタートしているので、機械による換気の問題点などにも遭遇します。だから、メンテナンスまでを含めると、日本

人には機械換気というシステムは合わないのではないかと思う場合もあります。もともと四季を感じ利用してきた民族ですから、自然の力を利用する、パッシブ換気システムのほうが適しているのではと。今後も換気だけでなく、こういった技術面へのチャレンジも続けていこうと考えています。

家づくりの永遠のテーマ 「コミュニケーション」

山田 技術的な側面から快適性をクリアしていくことは、当然のこととして重要ですよ。他にはいかがですか？

阿部 そうですね。いろいろと考えるところがあります。家の性能を基本におきながら、家族のコミュニケーションをどのようにデザインするか。これも命題と言えるでしょう。そしてこれは、決して家の中だけではなく、地域にも広がっていくテーマだと思うのです。そういう経緯から、山田先生にアドバイスをいただいたり、ネットワークをつくっていかうと考えて共同研究をお願いしたんです。

山田 ええ、そうでしたね。

阿部 よく、人間は「人と人の間にいるから人間なんだ」って言うじゃないですか。コミ

ュニケーションが取りづらくなっている現代の家族関係や、そこから形成された集合体としての街並みであるとか、さまざまな問題で地域工務店が果たす役割は決して小さくないと考えています。

山田 かなり大きなテーマではありますが、「コミュニケーションから生み出されるデザインによって、人々の生活や街をより豊かにするような家」が重要だということでしょうか。

阿部 その通りです。コミュニケーションをデザインする。リフォームするときに、その家のどこに問題点があったのか考えるのにもコミュニケーションを取り合うことが必要で、それを具現化したものがデザインになりますよね。

山田 ええ。ただ、その問題を考えて、一つの答えを導き出すのは、たとえ家族間であっても、なかなか難しいんですよ。コミュニケーションつて、学生に聞かけると、どうもごく親密な関係だけをイメージしているようです。でも、本来は実に多様で繊細なもののだと思います。例えば、満員電車であれだけぎゅうぎゅう詰めで、互いの視線は絶妙に避け合っているということがありますよね。あれは「避けている」という意味で、すばらしいコミュニケーションなんです。

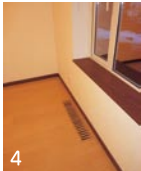
「新築こえるくん」実例

築35年の家が新築以上の性能に。 パッシブ換気が叶えた健やかな住まい



築35年で寒さに悩んでいたHさんのお宅。カビや結露も見られ、そのせいかお子さんは気管が弱く、葉が欠かせませんでした。3人目の誕生をひかえ「家をなんとかしたい」と考えていたとき、銀行から紹介されたのが住宅夢工房 阿部。「暖かくて、空気の良い家」が一番の希望なら、同社が提案する「新築こえるくん」がぴったりということで、工事に踏み切ることにしました。

「新築こえるくん」は、一度骨組み状態にして、基礎からすべての断熱・気密工事をするため、リフォームにもかかわらず「次世代省エネ基準」を超える高性能住宅が実現します。そのうえ、生かせる部分は利用することから、同じ性能の新築住宅と比較して費用が抑えられるそう。さらにパッシブ換気システムを標準装備としているので、新鮮な空気が常に対流する室内環境で、まさにHさんの要望どおりでした。



- 1.眺めのいい窓があるリビング。家族も近所に住むおばあちゃんも、みんなが集まる場所
- 2.以前は押し入れだった部分を窓に変更して、リビングに（写真正面奥）。明るく開放的な空間になった
- 3.リフォーム前の室内。ストーブのそばに誰かが座ると暖気が遮られ、窓からの隙間風、床からの冷気で「とにかく寒くて寒くてどうしようもなかった」
- 4.外部から取り込んだ空気は、冬は床下の放熱器で暖めて、窓下などのガラリから室内に送られる。断熱材の厚さで窓台の奥行きが深くなり、出窓のような窓に
- 5.吹き抜けに面した腰壁は、数カ所暖けるようになり抜いた。子どもたちに好評



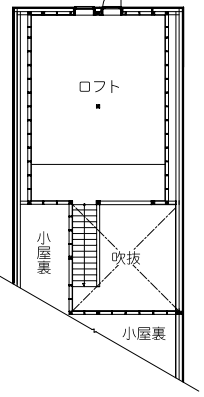
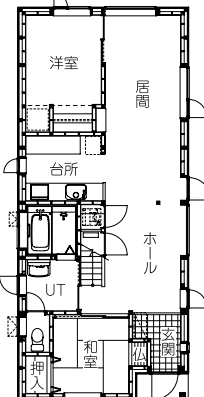
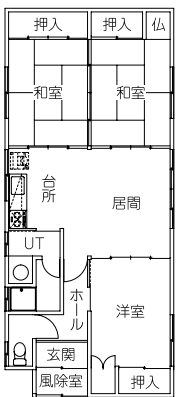
リフォーム前



リフォーム後



Q値：1.3W/mK・C値：0.2cm/m
■室蘭市・Hさん宅 ■家族構成／夫婦20代、子ども3人 ■構造規模／木造平屋 ■リフォーム面積／69.77㎡ ■工事期間／約4ヵ月 ■断熱仕様／基礎：押出法ポリスチレンフォーム（B3）100mm、壁：高性能グラスウール16kg200mm、屋根：高性能グラスウール16kg250mm ■オール電化 ■暖房方式／電気ボイラー、床下放熱器によるセントラル暖房 ■換気方式／パッシブ換気システム



阿部 真剣な話だと、あまり酔えませぬね（笑）。こちらこそ、これからもよろしくお願いします。最後に、今回山田先生とのコラボの実現にご尽力いただいた、（財）室蘭テクノセンターの主幹である小笠原光敏氏とビジネスコーディネーターの山本正彦氏に、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございます。

山田 私のできる限りの協力をさせていたただつていきたいですし、それも楽しみなところですよ。

阿部 こういった試みを私たちのような工務店が行うことが、現実的で可能性があると思うています。そして、こういった取り組みをもっと一般の人にも知ってもらうことで、住まいの可能性を広げ、豊かにしていきたい。地域の家づくりに責任のある立場として、チャレンジを続けるつもりです。

建築家×工務店 そのコラボが生み出すもの

山田 実際のコラボレーションの形態としては、「住宅夢工房 阿部のスタッフがヒアリングしてきた情報、つまり施主となるこ

阿部 そう言っていたけるとうれいすね。だからこそ、それぞれ先生方が真剣に取り組まれている中で、引き合わせれば何か重なってくる部分ができてくるのではないかと思っています。

山田 大学関係でも、専門領域が異なると、研究者同士の接点となる場がなかなかないのが実情です。そんなときに阿部さんが持つネットワークのおかげで、私にとっては「大先生」である方たちとも接点がつくれた。このような機会に、北海道ならではの技術を用いながら、今後どのような住宅のデザインが可能なのかを視野を広げて模索していくことが面白いと考えています。

阿部 住まいは多くの人が関わってつくりあげるものですから、人間関係やネットワークはまず必須になるでしょうね。

山田 建築業界の中でも、技術やデザインなど、各分野の専門家と連携が取れば、多様化する施主の要望に広く対応することも含め、住宅はより完成度が高いものになるでしょう。

山田 建築業界の中でも、技術やデザインなど、各分野の専門家と連携が取れば、多様化する施主の要望に広く対応することも含め、住宅はより完成度が高いものになるでしょう。

阿部 そうなんです。今日は、ありがとうございます。

阿部 真剣な話だと、あまり酔えませぬね（笑）。こちらこそ、これからもよろしくお願いします。最後に、今回山田先生とのコラボの実現にご尽力いただいた、（財）室蘭テクノセンターの主幹である小笠原光敏氏とビジネスコーディネーターの山本正彦氏に、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございます。

阿部 はい。現状では、当社のスタッフが、先生の所に相談に行つて、案件内容をお伝えして解決策を探っていますが、これからもっと進化させていきたいところです。

山田 大学教官と工務店が一緒にこういった試みをしている例は、あまりないかもしれませんね。大変ユニークで、有意義だと思います。もつと多くの人に知ってもらいたいですよね。

阿部 そうですね。住宅という分野において、技術とデザインの部分で本当は両立すべきものなんです。実はかみ合わない部分もあり、距離がある（笑）。でも家は多様な世界で数えきれない問題があり、しかもそれが全部絡みあっているんです。なので、より多くの分野から知恵を出しあつて、もつと広がりのある世界にしたいと。



Syozo Abe
（株）住宅夢工房 阿部 代表取締役。
1952年北海道生まれ。新分野・北方型住宅ECOレベルの全面改修工事「新築こえるくん」を開発。性能向上リフォームによる生活の向上と地域経済活性化への貢献を目指し、ヒューマン・ネットワークによる地域工務店ができることの幅を広げていきたいと邁進中。国の助成金を利用した先端技術を採用した新築・リフォームを新たな公共事業だと主張している。

山田

きたような技術・性能・コミュニケーションなど、さまざまな切り口から住まいを考えて、デザインはそれをどうソリューションしていくのかを考えていきたいんです。まあ、山田先生にはすごく迷惑な話かも知れないんですけど（笑）。

山田 いえいえ。阿部さんも私もそれぞれプラスになるように、いい意味で互いを「活用」していければいいのだと思います。コラボレーションの方法や、プロジェクトの進め方などは、これから探

山田 そうでしたか。私の立場からすると、大学で設計を教え、建築に携わっているながらも、阿部さんのような地域工務店の家づくりと向き合うという機会はほとんどないんです。北海道には優れた住宅技術があるにもかかわらず、それらを広い意味でデザインしていくということがまだまだ未開拓であると考えていたところに、阿部さんから声をかけていただいた。優れた技術が単なる技術的な問題だけにとどまることなく、生活の

阿部 そうかもしれませんね。山田先生に出会って、問題意識が広がったんだと思います。アドバイスを受け、アプローチの仕方に問題があったことに気がついたんです。問題意識が広がっただけでなく、もつと明確になっていった気がします。

山田 当初、阿部さんが相談に来られたときのデザインへの考え方って、主に「形」ということだったように感じていたんですが、その後、デザインに対する概念が広がってきたのではないかと。このあたりについてはどうお考えですか？

阿部 そうかもしれませんね。山田先生に出会って、問題意識が広がったんだと思います。アドバイスを受け、アプローチの仕方に問題があったことに気がついたんです。問題意識が広がっただけでなく、もつと明確になっていった気がします。

新たな人間関係。そして、 そこから生まれる可能性

山田 当初、阿部さんが相談に来られたときのデザインへの考え方って、主に「形」ということだったように感じていたんですが、その後、デザインに対する概念が広がってきたのではないかと。このあたりについてはどうお考えですか？